

富士商會 第5回法人セミナー開催

# 「SDGs」を考える

## 企業の身近な好取組事例解説

富士商會は10月18日、東京都千代田区の帝国ホテルで法人セミナーを開催した。今回で5回目となる同セミナーでは、「SDGs(持続可能な開発目標)」を推進する上での中小企業の取組事例などについて専門家が解説。経営体質や経営力を強化するには、品質・価格・納期の視点に環境の視点を加えて取組む必要性を強調した。セミナーには同社の法人顧客など約60人が参加した。

「を大切に、今後もお客さまの企業経営に役立つ会社を目指していきたい」と強調した。

セミナーでは、KAZコンサルティングの鈴木和男社長が「『環境経営』『CSR/CSV経営』として、次のステップ『SDGs』を考える」

「経済・環境・社会」の取組み、SGDsの進め方、ESG投資(定量的な財務情報に加え、



同社の法人顧客など約60人が参加

表層がほとんど融解してしまう恐れがあること、降水量が増えているため、今後は大型台風が発生頻度が多くなることなどを説明した。また、二酸化炭素の排出量について触れ、中国、米国、インドの3カ国で世界の排出量の約半分を占める一方、

セットやグリーン調達などへの対応、ISOの取得などを挙げ、「コストなどの負荷はあるが、対応することが成長のチャンスになる」と述べた。また、紙・ゴミ・電気などの環境活動は、どの企業も取り組んでいることから、本業や全ての業務に「環境」のメスを入れることで、企業体質が変わり、コストダウンや業績向上につながるなどの考えを示した。

環境経営に関しては、従来から重視している品質・価格・納期の視点に、環境の視点を加えることだと説明。経営者から社員、アルバイトまで、全ての従業員に共通な課題であり、取組めるものが「環境」だとし、「中小企業の経営体質・経営力を強化するには、環境への取組みを活用することが必要だ」と語った。

## 経営力強化に環境視点も不可欠

開催に先立ち、尾上俊一常務取締役がいさづし、「現在、政府から各企業に対してSDGsの取組みが推奨されていることから、各企業ではさまざまな取組みが実

践されている。その状況を踏まえ、今回は環境を主たるテーマにしたセミナーを企画した。皆さんの取組みの参考になれば幸いだ」と述べた。また、「当社は今年で創業

110年を迎えている。創業以来の精神である「お客さまをお守りした

のトリプルボトムライン向上を目指す自社のステップアップへのヒント」と題し、近年の気候変動の状況、環境経営・CSR経営・CSV(経済的価値と社会的価値の両立を目指すこと)経営

非財務情報である環境、社会、企業統治の要素を考慮する投資)などについて解説した。

気候変動の状況については、地球温暖化が進行しており、2100年までに北極地域の永久凍土

人口1人当たりの排出量は中国やインドよりも日本の方が多いことを指摘した。

企業に求められる環境化対策には、SDGsの取組み、カーボンオフ

また、CSRとCSVの位置付けについて説明



尾上常務



鈴木社長

環境経営・CSR経営・CSV(経済的価値と社会的価値の両立を目指すこと)経営

気候変動の状況については、地球温暖化が進行しており、2100年までに北極地域の永久凍土

人口1人当たりの排出量は中国やインドよりも日本の方が多いことを指摘した。

企業に求められる環境化対策には、SDGsの取組み、カーボンオフ

また、CSRとCSVの位置付けについて説明

講演後のアンケートでは、「今後の『SDGs』を取り組む上での取っ掛かりのヒントとなった」などの声が寄せられた。

講演後のアンケートでは、「今後の『SDGs』を取り組む上での取っ掛かりのヒントとなった」などの声が寄せられた。